

# オランダ研修報告

平成25年5月30日～平成25年6月1日

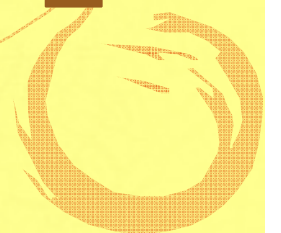
社会福祉法人 敬愛会

- \* 川越 悟
- \* 深澤 英輝
- \* 関根 直美



# 研修の目的

- 日本では単独世帯の増加や団塊の世代の高齢化が進んでおります。また、認知症高齢者の増加も大きな課題となっております。
- その高齢者が住み慣れた場所で安心して安全に暮らし続ける為にも「地域包括ケアシステムの構築」（住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的提供）が必要不可欠であります。
- 介護保険先進国であるオランダの保険制度の仕組みやマンツルケア（隣近所や家族、友人等が必要な介護を行うこと）による生活支援方法等、実際の状況を体験し今後のプロジェクトに生かしていく為の研修である。





# まずはじめに日本とオランダの 違いを整理しておきます

項目	日本	オランダ
介護保険	日本の介護保険はドイツ、ケアマネジメントについてはイギリス、アセスメント手法ではアメリカを手本	独自により1968年に介護保険導入 世界で一番目
費用	介護保険の費用は1割負担	全額税金対応※一部自費あり
人材対応	介護・看護人材不足	介護・看護人材共に豊富 ※給与体系が一般企業と同等になってからである
資格期間	介護支援専門員の5年以外は特になし（研修必須）	全ての資格において、5年毎に免許テストなるものがある。また個人毎に資格においてポイント制を導入して、その状況において剥奪や更新があるので、常時緊張感を持って就労している
賃金	事業所毎に異なる	資格に応じて1級～5級で給与が公務員みたいに決まっており、地域格差はほとんどなし。

項目	日本	オランダ
就業	週40時間程度	週36時間
医療	主治医は個人ごとの希望に応じて対応。主治医がいなくても個人ごとに医療機関に受診する	個人毎に家庭医が決まっている。何かあったらまずは家庭医に診て頂き状況に応じて専門医となる
薬	Drの判断により大きな影響あり	薬が効くということよりも薬についてリスクを最小限にすることを重要視する考え方の為、あまり薬は使用しない 自力で治すことを重要と考えている
インフォーマル	家族がほとんどである	マントルケア...ご家族、隣、近所、友人も含めて支援の一つである 前述の方が支援を行っても費用の対象である
ボランティア費用	事業所毎に異なる	法律で定められており、年間€1,500までなら給付あり

項目	日本	オランダ
計画作成	介護支援専門員	家庭医を中心に状況によって組み合わせである。基本的には事業所毎の個別援助計画みたいなものである ※介護支援専門等は余計な費用であるとのこと
高齢化状況	2011年：約21% 2040年：約30%	2011年：約16% 2040年：約26% 総人口の違いはあるが、日本と同様である
要介護	要支援1・2 要介護1～5	要介護1～10
介護	ご家族でも可能	身体介護に関しては資格を持っていないと家族でもNGである ※ボランティアでも傍にいる、本を読む等であり、介護はNGである
国際化	日本人独自のものが多い	移住民が多く多様化している

# プログラム

## 平成25年5月30日-1日目

- 10:00 ◆ Iris Luijendijk, Stichting  
Mantelzorg en dementie  
Ontmoetingscetrum  
「認知症出会いのセンター」
- 13:00 ◆ visit Leo Polakhuis  
(レオ・ポラックハウス)  
「地域包括介護看護センター」
- 16:00 ◆ Buurtzorg Jordaan  
(ブールト・ゾルフ)  
「地区看護訪問センター」
- 19:00 ◆ Alzheimer Café Laren  
(アルツハイマーカフェ)

## 平成25年5月31日-2日目

- 10:00 ◆ Care2all  
(ケア2オール)  
「地区介護看護訪問センター」
- 13:00 ◆ Huis op de Waard  
「認知症看護センター」



# 平成25年5月30日-1日目-見学①

◆名称：Iris Luijendijk, Stichting Mantelzorg en dementie Ontmoetingscetrum

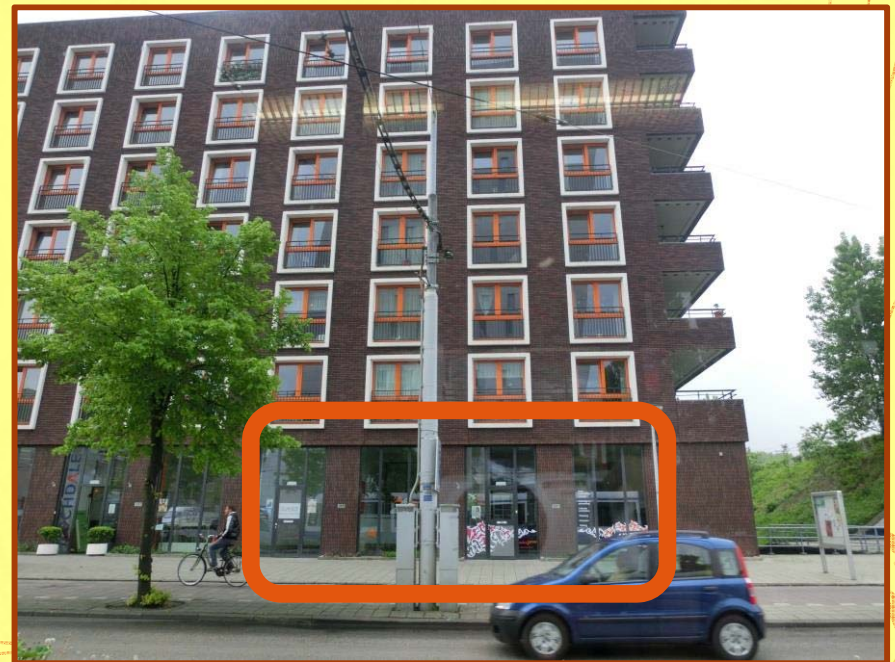
📍住所：Bos en Lommerweg 387, Amsterdam, Nederland

▼サービス種類：認知症出会いのセンター

■日本の認知症対応型通所介護

Φ内容

- ・営業日：月～土（週6日）
- ・スタッフ：7名～8名（常勤換算5名）  
（内ボランティアと  
インターンシップが一日2名～4名）
- ・1日の利用者：13名程度
- ・利用回数：週1～3程度  
（介護度によって決まる）





## Φkeyword

- ・ 認知症ケアは関係する人々をケアすることがスタートである  
(介護者のケアが重要)
- ・ 話をよく聴いて、その人に合わせて、難しくても時間をかけてその人自身を認める
- ・ 家族（マントルケア）があることも重要である
- ・ 認知症プログラムで大切なことは家でも事業所でも趣味的中心にすることである
- ・ 同じ所に毎日来ることも大切であるが他の所に行くといった刺激が1週間に1回程度は必要である
- ・ スタッフは精神科医、プログラマー、アクティビティーリーダー、看護師、ボランティアで構成されている
- ・ 送迎は全面的にボランティア対応
- ・ 一日の予定は組み過ぎないことも重要であり、リーダーがその場の雰囲気を見て臨機応変に対応する柔軟性も必要である
- ・ ご利用者が一番の思いはご自宅で生活していきたいということ



# 平成25年5月30日-1日目-見学①

出入口



ルーム①



ルーム②



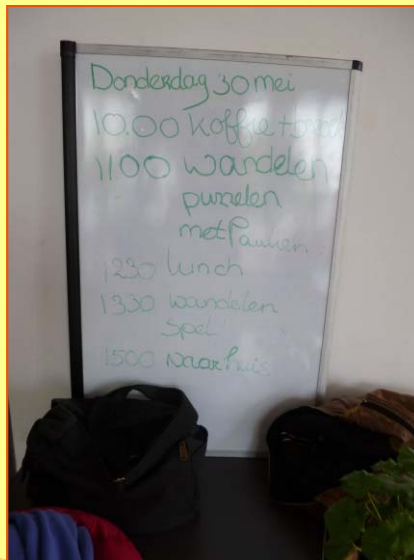
ルーム③



キッチン



一日のスケジュール



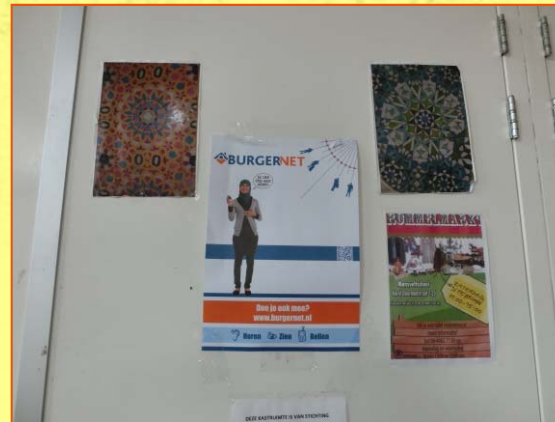


# 平成25年5月30日-1日目-見学①

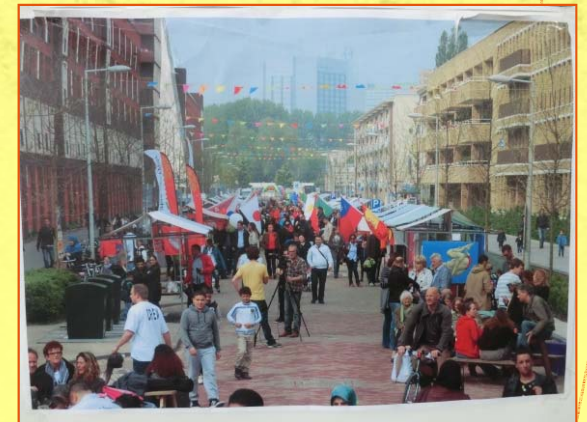
移民者の為の装飾①



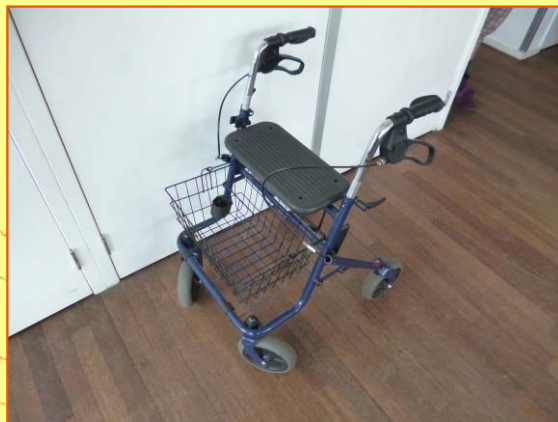
移民者の為の装飾②



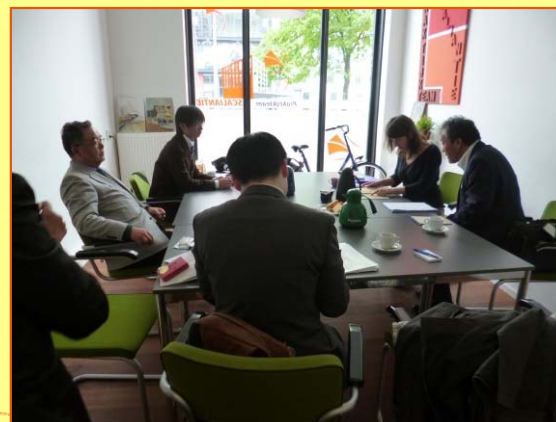
参加したフェスティバル



万国共通の歩行器



ディスカッション



集合写真





# 平成25年5月30日-1日目-見学②

◆名称：visit Leo Polakhuis（レオ・ポラックハウス）

📍住所：Saaftingestraat 8 106g BW Amsterdam

▼サービス種類：地域包括介護看護センター

■日本のグループホーム・高齢者住宅・レストラン等の集合体

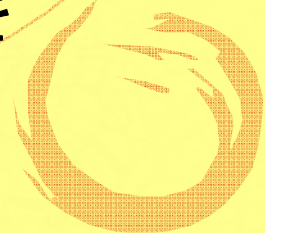
## Φユニットケア内容

- ・営業日：毎日（入居系施設）
- ・ユニット：12ユニット
- ・利用者数：1ユニット6名
- ・スタッフ：1ユニット2名程度
- ・オリジナルシステム-Domoticaを採用  
ドモ(住む)ティカ(テクノロジー)  
声、行動を感知
- ・ペット（猫ならOK）



## Φkeyword

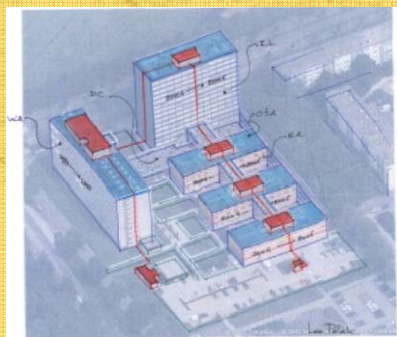
- ・ LowcareからHighcareまで対応できるように整備している
- ・ 地域交流の為にレストラン、誰でも気兼ねなく利用できる  
(特段に入場制限はなし)
- ・ 介護ケアレベル1~3は自宅 (高齢者住宅)
- ・ 介護ケアレベル5~7はユニットケア  
(看取りまで対応、施設ではなく家というスタンスで対応)
- ・ 認知症になると介護ケアレベルが5からスタートとなる
- ・ 介護ケアレベルの状況により高齢者住宅→ユニットケア等に移行となる
- ・ オリジナルITシステム (DOMOTICA : ドモティカ) 採用...  
常時、安全に見守れるようにセンサーによる見守りシステム  
約全30項目を個人毎に合わせて設定することで、より安全を  
向上させる  
※このシステムを活用することで夜間は12ユニット (72名) を  
2名で対応している





# 平成25年5月30日-1日目-見学②

建物概略



ユニットケア外観



外から見た廊下



玄関-三角自動ドア



明かりとり



明かりとり



明かりとり



明かりとり



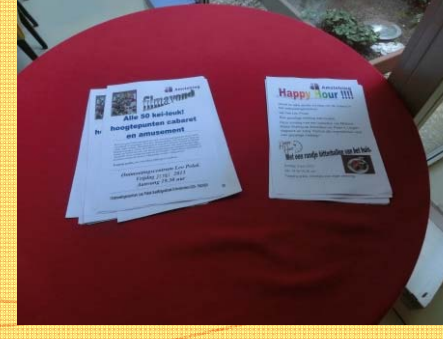
利用に向かう高齢者



催し掲示板



ご案内



高齢者住宅外観





# 平成25年5月30日-1日目-見学②

レストラン①



レストラン②



レストラン③



レストラン④



レストラン⑤



レストラン⑥



ビリヤード



PC部屋



日用品売店



ランドリー



理美容室



宗教室





# 平成25年5月30日-1日目-見学②

ユニットケア廊下	個室-猫を飼っている	廊下の素材	足もとの明かり
			
非常灯	トイレ①	トイレ②	中庭①
			
中庭②	中庭の椅子	ディスカッション	集合写真
			



# 平成25年5月30日-1日目-見学③

◆名称：Buurtzorg Jordaan(ブールト・ゾルフ)

📍住所：Willemsstraat 23 HS, 1015 HW Amsterdam

▼サービス種類：地区看護訪問センター

## ■日本の訪問看護

### Φ内容

- ・33年前より開設
- ・スタッフ:9名  
(看護レベル1~5の4~5のみ採用)
- 8:00~16:00
- 9:00~17:00
- 15:00~23:00
- ・利用者:要介護4~5(約50名)





## Φkeyword

- ・ボス(管理者等)はおらず、全員がパートナーとして携帯を活用することにより、ご利用者に対して対応している。※固定電話はなし
- ・移民が多く、言葉、歴史も違えば宗教も違う為、認知症対応も各々異なるのでそのあたりの対応は難しい
- ・ボランティアと協同することで例え重度の認知症でも困ったことはない(フォーマルなサービスだけでなく、インフォーマルを含めた全て活用できる資源を利用している)
- ・収入は介護保険のみである
- ・どのような状態になったとしてもチームワークにより在宅生活を維持させることは可能だと考えている





# 平成25年5月30日-1日目-見学③

事務所①



事務所②



訪問衣?



ご利用者の手作り



ディスカッション



集合写真





# 平成25年5月30日-1日目-見学④

◆名称：Alzheimer Café Laren(アルツハイマーカフェ)

📍住所：Naarderstraat 81,1251 BG Laren

▼サービス種類：アルツハイマーカフェ

■日本の...該当なし





# 平成25年5月30日-1日目-見学④

## Φ内容①

- ・ オランダアルツハイマー協会と心理学者が協力して1997年に開始。全国に220カ所
- ・ 毎月1回、決まった曜日に決まった時間に開催され強制ではなく自由参加である  
※施設のご利用者の参加はなし



- ・ 参加者の自己負担はなし
- ・ 参加者はピアノの伴奏とウェルカムドリンクで迎えられ、一つの大きなテーブルを囲うように自由に座る

- ・ 気が知れた同士は既に会話が弾んでいるが、外部の人間にはどの方が認知症かご家族かは見た目では判断できない状況である  
(気兼ねなく参加できる大きな理由の一つである)





# 平成25年5月30日-1日目-見学④

## Φ内容②

- ・ 定刻になると司会者が出てきて挨拶進行を行う  
まずは30分間-昔ながらのゲームを失敗したりちぐはぐな回答により場が和んだりしている  
この参加状況により「認知症かなあ」と認識する状況はあるが皆楽しそうである
- ・ 30分が過ぎると正確に終了し水分補給等の交流の時間が30分ある  
その30分間は自由行動でお酒も1杯までなら誰でも飲めるとのこと  
昔懐かしき写真を観る方・絵や作品や見る方等様々である  
移民が多い土地柄の為か日本人である私たちにも気さくに話かけて下さる何とも暖かい雰囲気の中での交流である





# 平成25年5月30日-1日目-見学④

## Φ内容③



- ・ この時間を利用してご家族としては同じ境遇の方と交流ができるのでネットワークが広がり普段から抱えている悩み等を話すことで気持ちが楽になるとのこと
- ・ 認知症のご利用者は不安を抱えており現実と向き合うことで心のストレスから解放できる（集団カウンセリングに似た状況）

- ・ 資金は全て寄付で賄われている（寄付を集めるのに5,000人もいる）

天井①



天井②



作品①



作品②





# 平成25年5月31日-2日目-見学⑤

◆名称：Care2all(ケア2オール)

📍住所：Frambozenweg 47- 2321 KA Leiden  
建物：Bedrijvencentrum Frambozenweg

▼サービス種類：地区介護看護訪問センター

■日本の居宅介護支援事業所・訪問看護・訪問介護

φ名称の由来...

care to allの「to」を「2」と置き換えている  
また右図の名刺は●が課題であり、課題が  
どんどん大きくなり生活が困っていくが  
「care2all」のサービスを利用することで徐々に  
課題が小さくなっていくという意味を込めている





# 平成25年5月31日-2日目-見学⑤

## Φ内容

- ・ 看護師による開設（スタッフ1名）
- ・ サービスとしては看護、介護、生活指導である
- ・ 認定が決まると、ご本人、ご家族、介護事務所、ホームDrからの連絡により相談があり、訪問確認し利用が決定される
- ・ サービスを調整し訪問看護だけではなく訪問介護サービスの依頼調整も行う  
(介護支援専門員のプランニングという概念はなく、個々に個別援助計画があり、サービスを位置づけている感じである)
- ・ 派遣依頼、調整を行っているスタッフは24名程度(フルタイムだと12名程度)
- ・ 登録利用者は20名～25名程度であり、下は9歳～上は94歳である
- ・ 複合障害、MRSA、パーキンソン、認知症等が主な疾病である





## Φkeyword

- ・ 保険だけで難しい場合もあるのでその時は自費も含めて対応している
- ・ 認知症の対応としてはサービスを受けるかお金で支払われる(マントルケア)といった選択肢となるが、悪用されることもあり国会で課題となっていることもある
- ・ ある程度の時間は決まっているが、ご利用者が満足した所で切り上げる(認知症のご利用者にとって安心感が違う)
- ・ オランダほど苦情を受け付けている国はなく、苦情は質を上げる為の妙策として重要である

集合写真



事務所



気心





# 平成25年5月31日-2日目-見学⑥

◆名称：Huis op de Waard

📍住所：Kaarsenmakersstraat 2, 2312 SG Leiden

▼サービス種類：認知症看護センター

■総合サービスケア付き住宅  
(食事・入浴・排泄)

Φ内容...

\* 82戸のワンルーム・7戸の2人部屋  
(夫婦は2人部屋)

\* ご利用者88名

\* レストラン・美容室・ペディキュア・図書館完備

\* 介護は訪問による対応

※将来を勘案して新プロジェクト計画中  
東村山プロジェクトと同様な計画





## Φkeyword

- ・ 財源の課題により介護保険の法改正を迎えるごとに介護報酬頼りから自己負担増に変わりつつあり、サービスの在り方の返還が求められている
- ・ 4～50年後どうなっているか見据えた将来を考えて計画を行う
- ・ オランダではほとんどがリフォームである為、次に違うサービスで使う時にも使える様に建てる（介護だけでなく色々な方向で考える必要がある）
- ・ 待っている施設から地域の活性化の為に我々が出ていくという考えが重要である
- ・ 現状の理美容・レストラン、ペディキュア、図書館だけでなく、カフェ（インターネットカフェ含む）、バー、売店、フィットネス、花屋、クリーニングも検討中
- ・ コミュニティセンターとしての機能...ケアが必要だから来るのではなく、好きだから来るようする



# 平成25年5月31日-2日目-見学⑥

庭①



個室「玄関から」



個室「シャワー」



庭②



個室「居間」



個室「トイレ」



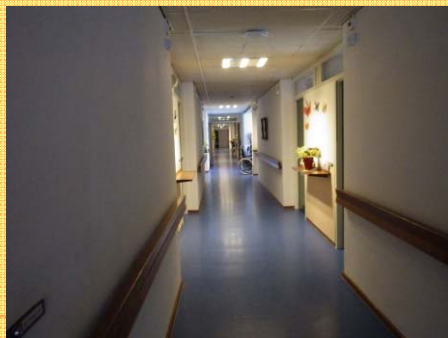
庭③



個室「ベッド」



廊下



庭④



個室「キッチン」



個人毎の電動カー





# 平成25年5月31日-2日目-見学⑥

レストラン



レストラン



ミニキッチン①



ミニキッチン②



ミニキッチン③



厨房



美容①



美容②



ランドリー



修繕室



ディスカッション



集合写真





## 【研修謝辞】

本研修に際して、様々な施設等をご案内していただいた、後藤猛様に深く感謝致します。案内や通訳等に限らず、オランダの文化や制度、民族性等についても多く学ばさせていただきました。日本とオランダでは文化が違えど、人とのつながりは共通であります。今回の研修を通じて、今後の敬愛会の運営に生かしていきたいと考えております。

社会福祉法人 敬愛会  
研修参加者一同



## その他

### ◆成田空港⇒スキポール空港

飛行時間：約12時間

飛行距離：約6,000マイル  
(約9,600キロ)

日本との時差：約8時間

移動距離：約173.8km (総合計)

### ◆移動等詳細

#### 1日目 (出発9:00)

- ⇒約 6.2km⇒「認知症出会いのセンター (10:00～12:25)」
- ⇒約 5.6km⇒「地域包括介護看護センター (13:20～15:00)」
- ⇒約 7.9km⇒「地区看護訪問センター (16:10～18:10)」
- ⇒約29.7km⇒「アルツハイマーカフェ (20:20～22:20)」
- ⇒約30.0km⇒ (帰宿23:30) ※移動距離：約79.4km

#### 2日目 (出発7:45)

- ⇒約46.2km⇒「地区介護看護訪問センター (10:20～12:00)」
- ⇒約 2.0km⇒「認知症看護センター (13:10～15:15)」
- ⇒約46.2km⇒ (帰宿17:30) ※移動距離：約94.4km

